

○住宅性能表示制度の評価項目

地震などに対する強さ」「火災に対する安全性」「省エネルギー対策」など10分野の性能項目について、等級や数値で表示します。

外見からは判断できない建物の性能の違いが、専門知識がなくても分かりやすく理解していただけます。

1. 構造の安定

地震や強風、積雪などにどのくらい耐えられるのかを示すのが「構造の安定」

建物以外にも地盤の強さ、基礎の万全さもチェックできます。



6. 空気環境

健康への影響を指摘されることの多いホルムアルデヒドへの対策を評価するのが「空気環境」

内装に使用される建材の選定や、室内の換気対策がチェックできます。



2. 火災時の安全

自宅や近隣の火災から、どれだけ火に強くて避難しやすい住まいなのかを示す「火災時の安全」

外壁、床、窓などの耐火性、避難・脱出経路の安全性などが調べられます。



7. 光・視環境

明るい住まいのために、居室の窓の面積と、位置・方位について、どの程度配慮されているかを示す「光・視環境」

ただし窓が多いほど耐震性や省エネ性能が低下しがちなので要注意。



3. 劣化の軽減

丈夫で長持ちする住まいのため、劣化対策がどのくらい手厚くされているのかを示したのが「劣化の軽減」

防腐・防蟻・防錆処理などの工夫レベルがわかります。



8. 音環境

外部の騒音を防ぎ、中の騒音を漏らさない工夫がされているかを評価するのが「音環境」

共同住宅では、上下階との床や隣との壁に関して騒音を伝えにくくする対策が講じられているかも重要です。



4. 維持管理への配慮

給排水管やガス管のメンテナンスのしやすさを示した「維持管理への配慮」

日常の掃除、点検、補修が容易な住まいかどうかチェックできます。



9. 高齢者等への配慮

住まいが将来にわたって安全・快適であるために、バリアフリー仕様の程度を示すのが「高齢者等への配慮」

移動時の安全性の確保と介助がしやすくするための工夫レベルがわかります。



5. 温熱環境

住まいの省エネルギー性能レベルを示すのが「温熱環境」

エネルギーを節約し、冬は暖かく夏は涼しく過ごせる環境への対策レベルがわかります。



10. 防犯

外部開口部（ドアや窓など）について、防犯上有効な建物部品や雨戸等が設置されているかの侵入対策が講じられているかチェックします。

